

文殊菩薩が釈迦の意向を受けて見舞いに行くことに決まり、その問答を傍聴しようと大勢が維摩の居宅を訪れる。維摩の宅は方丈の小さな草庵であったが、不思議なことに全員が入って余りある大きさになった。

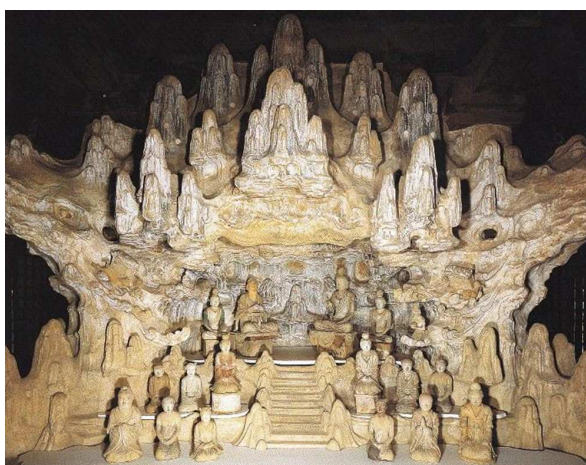
『維摩経』の経典の中で、維摩居士は悟りにより不可思議の力を持ち、問答にもすぐれた人物とされ、在家、俗人にあっても最高の智慧、悟りに達することができることを教えている。

法隆寺五重塔塑像群の中には、この問答の場面をあらわした群像がある。方丈の中で維摩と文殊が向かい合い、それを多くの菩薩や大弟子、守護神が取り囲んでいる。

また、興福寺の維摩と文殊の像は、法隆寺五重塔内の像と異なり、こちらは『維摩経』の場面から、問答する二像だけを、対で取り出してつくられたものである。

ほう りゅう じ
法隆寺

五重塔の東面にある
維摩居士と文殊菩薩の
問答場面



こう ぶく じ
興福寺

維摩居士像(国宝)

文殊菩薩像(国宝)



維摩経
Vimalkirti-sutra Sutra

「維摩経」は西暦紀元前後の頃に生まれた経典。
日本には飛鳥時代に伝わり、聖徳太子によって日本で初めて解説された仏典の一つ。日本仏教に多大な影響を与えた。